

大学の世界展開力強化事業 取組概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(II)))

「開かれたASEAN+6」による日本再発見—SENDを核とした国際連携人材育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

グローバル化と混迷の時代に日本が進むべき道を見出すには、外部の視点から日本社会を見直すプロセスが不可欠である。従来型の知識集約型の専門家を超え、豊富な現地体験に裏打ちされたグローバルとローカルの複眼的知性と現地感覚を備え、新たな視角から「日本とアジアを再発見」して、その課題解決への提案と実践できる能力を有したリーダーを養成する。

【構想の概要】

人材養成のため、大学キャンパスでの知識集約型の専門家養成に留まらず、社会の現場で実践的な交流経験を積み、広い視野と具体的な実践能力を涵養する。特にSENDによりアジアの人々と共に「日本とアジアを再発見」することに力を入れる。学内関係部局連携の基盤としてアジア研究教育ユニットを24年12月に創設した。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

1. 大学院における国際共同指導の制度化

学生と教員の国際移動を通じて複数国の大学教員から指導による教育研究体制を確立。

2. アジア地域高等教育共通基準の提案

単位認定の実績から、ASEAN 大学連合(AUN)や欧州の枠組とも通用可能なアジア地域に適合した高等教育の共通基準を提案する。

3. 複言語教育の日本でのスタンダード化

複眼的知性の基礎である複言語教育を、日本の高等教育の標準モデルとして提案。

4. 学生の主体的国際交流の充実

国内外の大学院生、学部生が参加する国際ワークショップの毎年開催を定着させ、リーダー人材の交流機会の促進を図る。

(台湾・国際共同フィールドワーク)



■ 交流プログラムの内容

(タイ・バンコック派遣)



段階的包括的国際連携モデル

- ・多文化理解交流教育および短期SEND: 学部段階ではきっかけ、気づき、発見を主たる目的とした複言語教育、多文化理解交流教育と短期SENDプログラムを実施
- ・国際連携専門教育および短期・長期SENDとその準備教育: 学部3・4 回生から修士課程を主な対象として、学生・教員のエクステンジ、招聘教員による授業と単位認定などにより、グローバル水準の専門能力を身につけるコースワークを提供。長期SENDのトレーニングとして日本語教育法、「京都で学ぶアジアと日本」科目を履修。
- ・国際連携研究指導および長期SEND: 大学院では博士論文の国際共同指導を実施すると共に、日本語指導補助、日本・アジア研究教育等を行う長期SENDを実施。修了生は、グローバルな視野と現地感覚を備えたアジアのリーダーとして育成される。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

H24年度は、ベトナム、フィリピン、タイ、台湾、韓国、中国、オランダにてPre短期SENDプログラム、ハワイ、韓国、中国、台湾にて現地語学研修を実施、またタイ、カタール、韓国にて博士論文国際共同指導を実施して、予定をはるかに上回る学生派遣の実績をあげた。

○ 外国人留学生の受入れ

H24年度は、初年度であり、ネパール1名、中国5名を博士論文国際共同指導のため受け入れるにとどまった。ただし連携大学の先方負担によりドイツ、中国から来日した学生4名に国際共同指導を実施した。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	92	74	85	87	82
学生の受入	6	39	47	49	47

注) H24は実績、H25以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

1. 日本人学生の派遣を促進するための環境整備

海外留学に必要な知識・能力を持たせるため、英語およびアジア言語を習得する複言語教育を学内外で提供。H24年度は英語、中国語、韓国語現地研修も実施した。また、SEND派遣のみならず一般の留学の準備教育としても重要な「京都で学ぶアジアと日本」科目、および英語で提供される科目群を整備した。

2. 留学生の受入を促進するための環境整備

学内関係部局連携の基盤としてアジア研究教育ユニットを24年12月に創設し、国際連携と留学生受入をサポートする支援室を置いた。留学生が受講しやすい「京都で学ぶアジアと日本」科目、および英語で提供される科目群を整備した。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

外国語も含めた情報発信と成果の各大学や学生、産業界等への普及

開発した教育プログラムは英語教科書、ビデオ教材、オープンコースウェアなどの形で広く公開し、国内外の大学、学校、企業などでの利用に供することをめざす。H24年度は、英語教科書・SEND参加学生用資料作成のための翻訳作業に力を入れた。